IPPO IPPO NIPPON

■被災地出張授業 …… 2015年 11月18日

私の人生での学び

講師：立石 文雄 幹事（オムロン 取締役会長）

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業を、工業技術者を中心としたものづくり人材を輩出する宮城県白石工業高等学校で行った。今回は、立石文雄幹事が講師を務め、これまでの人生の中での学びを語り、「夢を持ち、諦めずに頑張ろう」と生徒を激励した。

創業者から得た学び 好奇心とアンテナ

私が会長を務めているオムロンの創業者は、私の父でもある立石一真です。皆さんと同じ工業技術者でした。私は父の背中を見ながらたくさんのことを学びました。父は人一倍、健康に関して強い思いがありました。どうしてかというと、自分の父を小学校一年生のときにガンで亡くし、奥さん、つまり私の母も私が1歳のときにガンで亡くしているからです。健康に関する事業で世の中の役に立ちたい。その気持ちが、父の原点だと思います。そして、徳島大学医学部整形外科との共同研究で、電動義手（サリドマイド用）を開発しました。

また、さまざまな工業品の発明もしました。それは旺盛な好奇心によるものです。日曜画家、能楽、茶道、小唄、音楽などさまざまなものに興味を示し、常に世の中の情報にアンテナを張っていました。夜遅くまで、新聞を読みふけっていたのを覚えています。そして、気になる記事があると、すぐに部下に伝えて事業に結び付けていました。

あるとき、ソニーが開発した日本初のトランジスタラジオを父が購入したのですが、そのトランジスタを応用できないかと考えたのです。スイッチにトランジスタを採用することを発想し、世界初の無接点近接センサーを開発しました。

世界的に有名な経営学者のピーター・F・ドラッカー氏とは家族ぐるみのお付き合いでした。ドラッカー氏は「彼ほど、技術について造詣が深く、その方向性とイノベーションについて明確なビジョンを持っていた人を、私はほかに知らない」と話されていました。

3年間の闘病生活での学び 命の大切さと感謝の気持ち

私が大学四年生のときに、人生の大きな転機が訪れました。ある会社の入社試験の一環で健康診断を受け、結核を患っていることが発覚したのです。結核は、今では完治する病気ですが、当時は、そう簡単に治る病気ではありませんでした。私が、死を覚悟した瞬間でした。

生きるか死ぬか、必死で毎日を過ごしていましたが、3年間の闘病生活の中で、不思議と生きることを諦めようとは、一度も思ったことはありませんでした。

初めの一年半は、父の勧めもあり、薬を使わずに人間が本来持っている自然治癒力だけで治そうとして、日夜体力づくり、精神力強化に励みました。鉄板を持ち上げて筋力トレーニングを行ったり、食事は肉を食べずに魚中心とし、朝・昼・晩には生野菜ジュースをどんぶりいっぱいに飲みました。それから、水風呂に入ったり、布団ではなく板の上で寝たり。もちろん、つらかったのですが、“Never Give Up” で頑張りました。

そのあとの一年半は投薬など西洋医学に基づいて療養生活を送り、完治することができました。

3年間の療養生活で学んだことは、命の大切さです。それから、周囲への感謝の気持ちを強く持つようになりました。この経験があったからこそ、良い意味での怖いもの知らずになることができ、何事にも前向きに取り組むことができるようになったのだと思います。

グローバル社会ではお互いを理解し 自分の意見を持つことが大切

私は、シカゴ、トロント、アムステルダムで13年間の海外勤務を経験し、多くのことを学びました。トロントでは、20カ国から社員が集まり、さまざまな

文化、価値観を持った人たちと仕事をしました。そこで大切なことはフェアネス、いかに平等であるかということです。偏見を持ってはいけません。お互いを理解することで、良いチームワークが生まれるのです。また、感謝の気持ちはみんなに受け入れられました。そして、物事は損得ではなく、善悪で判断することです。

グローバル社会で仕事をするには、自分の意見をはっきりと言うことが求められます。グローバル社会では、お互いに主張をしながら、理解を深めていくのです。日本人は不得意ですが、自分の考えをしっかりと持って、どうアピールするかを、普段から意識してください。

これは会社の採用面接でも重要なポイントで、面接官は前向きで積極的な気持ちを持っているかを見ています。会社側から、この会社で何をしたいのですかと尋ねられる前に、自ら積極的に、この会社でこういう仕事をしたいと意志を表現できるとよいでしょう。

Never Give Up！
旅に出よう！

私が今までに担当した仕事で、特に楽しかったのは、オムロンの中で大きな事業である「インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー」の社長を務めたことです。5年間、世界中の国々へ行き、さまざまな改革をしました。多忙な毎日を過ごしましたが、とても充実した楽しい日々でした。

私が62歳のときに、長年の夢でもあった宮城県にある東北大学大学院工学研究科で博士号を取得することができました。皆さんも夢を持ち、夢を追い求めてください。大切なのは、“Never Give Up”の精神です。

そして、旅に出てください。海外でも日本でも構いません。旅先で、異なる考えを持つ人々と触れ合い、その考えを尊重し、理解してください。旅は、異文化の人々を受け入れる寛容な精神を育ててくれます。人との出会いは一期一会です。たくさんの人と出会って、寛容性を高めてください。

生徒の感想

●普段の生活でも、周りからの意見は大切だと思いました。自分の考えだけでなく、他人の意見を取り入れることで、物事に対しての見方や考え方の幅が広がることを学びました。

●僕はまだ夢が決まっていません。今回の講義を聴いて、自分にしかできないことを探して、みんなの役に立ちたいと思いました。今後は、ささいなことでも困っている人がいたら、積極的に助けにいきたいと思います。

●成功者は、ただ成功したのではなく、努力の末に成功への道が開けたのだということが伝わってきた。自分も若いうちに、たくさんのことにチャレンジしようと思った。

●講義で一番印象に残っているのは、「損得ではなく、善悪で判断しろ」という言葉です。これからの生活では、このことを意識して生活していきます。

●社会を生きていくためには、積極性が必要だということが分かりました。僕にも夢があるので、その夢のためにも積極的に取り組み、夢をかなえたいと思います。

●確かに感謝の気持ちは忘れてはいけないと、あらためて思いました。いつも親や誰かに支えてもらって生きているのだと分かりました。闘病生活でも諦めなかったのは、すごいなと思いました。自分もネバーギブアップで頑張りたい。

●夢を追い求めること、何でもチャレンジすること、聞き上手になることなど、今回のメッセージを頭に入れて生活し、身に付けようと思いました。

●自分が、今何をしなければいけないのかを実感させられ、いろいろな経験を今のうちにたくさん積むことが大切だと思いました。

●母親や兄弟との死別や闘病生活など、大変なことを経験しながらも、海外で経験を積み多忙な日々を過ごした立石さんの人生を聞いて、こんなにつらくて壮絶な環境の中でも頑張れるんだということを学びました。

●オムロンの創業者の方は、いろいろなものに興味を持ち、そこから機器の開発に活かせる知識を身に付けたのだと分かりました。自分も将来、何か新しいものを作りたいと思います。そのために、今よりも多くの知識が必要なのでもっと勉強しなければいけないと思いました。

●立石さんの人柄の良さを感じました。ちゃんと自分の目標があって、それをかなえるために、常に考え、行動していることが、素晴らしいと感じました。

●人は努力を積み重ねれば、結果が見えてくるということが分かりました。夢を追うこと・判断力を付けることも大切。それ以上に、先輩のため上司のためではなく、これからの社会のためになることをしていくことが、何より大切だと思いました。